

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が出席することが困難な場合、保護者や本人の希望を確認したうえで、電話連絡などでコミュニケーションをとり、信頼関係構築につなげている。	テレビ電話を利用し、互いに顔を見てコミュニケーションをはかっている。児童の負担やプレッシャーに感じないようなコミュニケーションを心掛け、楽しい時間になるよう工夫している。	今後も児童に寄り添ったコミュニケーションを大切にする。さらなる充実を意識しないことがポイントとなる取り組みとする。
2	多機能型施設なので、放課後等デイサービスへ移行した児童について情報共有・相互理解を深めることができる。	具体的な関わり方や特性・日頃の様子について密に情報共有している。	児童発達支援事業所と放課後等デイサービス事業所が併設されているので、今後交流の場を設け、支援について実践を交えて相互理解を深めていく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度は、放課後等デイサービスの利用者が少なく、他者との関りをもてる機会が少なかった。	他者との関りをもてる機会が少なかったが、利用者のニーズを考えると、関りを持つ機会が必ずしも必要ではないことへの矛盾。	今後も児童の思いを大切に、支援員との関りから慣れていくなど、個々に合わせて支援していく。
2			
3			